

議事概要記録

開催日時	平成 25 年 11 月 16 日 10 時 00 分～12 時 00 分	開催場所	和歌山県立医科大学附属 病院中検技師控室
会議種別	平成 25 年度 第 5 回理事会	議長	畑 忠良
		書記	田中 規仁
出席者 〈敬称略〉	玉置 達紀、竹中 正人、畑 忠良、大石 博晃、田中 規仁、 蓬台 克之、丸澤 佳子、栗林 伴有、瀧口 良重、今西 数彦、瀧谷 雅彦、脇村 小津江、 村田 正吾、勝山 浩樹 14名		
欠席者 〈敬称略〉	木下 博之、田中 久晴、須賀 洋、	オブザーバー	石田 茂己 (35 回和学会実行委員長)
次 第			
議事概要	<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会長報告 2. 第 4 回常務理事会報告 3. 事務局報告 4. 学術部報告 5. 経理部報告 6. 第 35 回和歌山県医学検査学会進捗報告 7. 各種委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 公益事業活動 (イ) 定款・渉外 (ウ) 精度管理 (エ) データ標準化 (オ) 会誌編集 (カ) ホームページ (キ) 会報・広報 8. 連盟 9. その他 <p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 季刊誌ピペット配布協力施設の募集について 2. 精度管理委員会より 3. 事務局より 4. 行事予定表等の広告募集について [継続審議] 		
決議事項 及び 継続事項	<p>冒頭に、会長より挨拶があった。</p> <p>報告事項</p> <p>会長報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日臨技関連報告について 1 月の行動予定の報告があった。 ・支部・近臨技関連報告 <ul style="list-style-type: none"> 認定心電技師について、NPO 心電学会は日本不整脈学会と統合する予定で、認定試験は日臨技認定センターにて独自に進めていく方針であると、支部幹事会で日臨技宮島会長より報告があった。 和臨技としては引き続き、日本心電学会員である受験資格条件の抹消を申し入れた。 ・滋賀県健康創生特区について <ul style="list-style-type: none"> 特定健診の受診率を向上する目的で、薬局で簡単な血液検査（血糖、コレステロール、中性脂肪等 5 項目）を実施し、薬剤師が特定健診の受診を勧める。将来的には全国展開が目標であるが、登録衛生検査所の規制緩和による様々な影響（精度管理の問題や臨床検査技師の存在があまり表に出ていないこと等）も危惧され 		

るため、日臨技に情報収集等の要請が行われた。

・和臨技関連報告

第9回アジア研修に参加した、岡山理科大学の2名の学生と片岡教授がピュアーエデュケーション講師として和太祭のVCTに参加予定

11月26日に知事感謝状表彰式がアバローム紀国にて予定(受賞者:勝山幹事(前理事)、玉置会長来賓出席)

26年1月15日、医療従事功労者賞表彰式が県庁にて予定(受賞者:村田幹事(前会長)、玉置会長来賓出席)

・他団体関連

和歌山県病院協会関連の報告があった。

第4回常務理事会報告

次回理事会を当初予定の1月11日より18日に変更し次年度事業計画案と予算案の審議とヒアリングを行いたい。なお、次年度事業計画案並びに予算案は1月6日の提出期限とすることで申し出た。また、予算案には必要経費、とくに日当・交通費等について漏れが無いように通達する事となった。

日臨技より一般市民向けの季刊誌「ピペット」が発刊される事となった。同誌を病院施設内の、広報誌設置場等で常設配置(各地臨技から10施設程度)してほしい旨の通達があった。

(その他常務会会議録参照)

事務局報告

和歌山県医事功労知事感謝状 謹呈通知がありました。その他、大きな動きはなし。

学術部報告(玉置会長代理報告)

第63回日本医学検査学会座長を2名推薦(竹中副会長(生理分野)、堀端臨床科学班長(化学分野))した。

日臨技推進事業助成金について、当初位は実費請求での通達であったが、後日に日臨技事務局より収支0/0円にて再提出する旨の連絡があり、対応した。

次年度の日臨技近畿支部学会シンポジウム打ち合わせがあります。

近畿支部研修会の血液が和臨技担当(楠血液班班長)と報告があった。

経理部報告

収支に進捗報告があった。今年度は緊縮計画であったため、次年度に向けて若干余裕をもって決算出来そうとの報告であった。

第35回和歌山県医学検査学会進捗報告(石田実行委員長)

当初、ランチョンセミナー(会場代弁当代20万円)として予定していた所、提示額での開催が難しいため、和臨技とメーカーとの共催という形で経費を抑えて行いたいとの報告があった。

学会予算について、予算の根拠説明と進捗状況の報告があった。目標の一般演題10題に対し5演題に留まっているため、追加募集の案内を配布したとの報告があった。

各種委員会報告

・公益事業活動

ピンクリボン in 和歌山が10月5日紀三井寺境内で行った。初の試みとして和臨技ブースを設置し、触診体験をして頂いた。ある女性が、「表面を撫でるようにしていたがそれでは見つけられないですね」との感想を頂いたと報告があった。

少数ではあるが男性にも触診体験をして頂いたとの報告もあった。

ピンクリボン紀南については10月13日に熊野古道・田辺市本宮町本宮館・熊野本宮大社大鳥居で行われた。須賀理事が体調不良につき、社会保険紀南病院の石水技師が代理で行ったとの報告があった。

ピュアーエデュケーター養成講座は明日の17日(第5回)で全過程が終了の予定であり、受講修了者は11月23日の和太祭でのVCTとミニ講演の講師として派遣予定です。

本日、この後に医療セミナーinわかやまが開催されます。役員各位には準備と撤収の協力をお願いします、との申し出があった（検査展も同時開催です）。

・定款・渉外
特になし

・精度管理

和臨技サーベ이의結果回収が完了しました。3点の不具合（化学報告書に一部に不備、生理機能検査1題の回答選択に適切なものが無かった、1施設の資料配布に不備があった）が報告され、順次対応したとの報告があった。

・データ標準化

11月末に日臨技へ、和臨技サーベイ（血液と化学）集計の報告をします。

・会誌編集

5編掲載目標の中、1編のエントリーもありません。経験談については1題のエントリーがあった。学術記録の提出も含め、引き続き投稿案内をすることとした。

・ホームページ

第35回和歌山県医学検査学会の広報があれば掲載します。

・会報

会報62号（4月～5月発行予定）として、平成25年度後半の活動をまとめます。すでに終了している行事に関して年内に原稿提出を要請します。表彰関係、アジア研修報告、ピクリボン報告、医療セミナーinわかやま等々の報告をお願いします。なお、経費削減のため理事会等の、会議録の掲載は中止し、行事予定表と共に別刷で配布する事となった。

・連盟

特になし

審議事項

季刊誌ピペット配布協力施設の募集について

日臨技より一般市民向けの季刊誌「ピペット」が発刊される事となり、病院施設内の広報誌設置場等で常設配置してほしい旨の通達があった。また、日臨技（印刷会社）からの直送するため10施設程度のリストアップ要請もあった。

該当施設理事には、施設長への常設許可願いの稟議提出や、季刊誌の管理と補充等の要請があった。いったん持ち帰り、稟議を挙げて、許可を得てから事務局に返事する事となった。

新春新聞広告（読売）から広告掲載の依頼があった。顔写真つき35,000円 お断りする事になった。

精度管理委員会より

10月27日での委員会で、外れ値への対応としての是正報告書は、サーベイ要綱には外れ値への対応についての記載は一切無く、いきなり唐突に是正報告書の提出を求めるとは混乱を来すので是正報告書は中止したい。再サーベいは残余試料があれば再サーベイを行い、試料準備が困難な項目は従来通りヒアリングを行う事で了承された。

次年度以降の運用方法について、再サーベイや是正報告書等の具体的な運用方法については、年度明け早急に委員会を開催し、事業案を作成する予定です。

また、緊縮による試料費用等の削減から、各施設にて患者試料を用いたサーベイ試料の作成が有用であるが、倫理上の問題があり安易に実施できないのが現状である。

よって、サーベイ内容を充実するには市販品の使用や、プール作成可能施設の調査をお願いしたいとの申し入れがあった。

和臨技サーベイは、無料で、（日臨技や医師会サーベイに参加できない施設を救済すると言う意味合いで）中小規模の施設も広く精度管理する目的で行う事が前提であ

	<p>ること、大規模施設も基幹病院的な意味合いで参加を義務付けること、を確認したが、サーベイ項目は日臨技レベルで行うか否かも含め、運営方法を委員会で検討する事となった。試料についても市販品とプール調整品の併用等で検討し、試料調整に係る実務委員の日当も含め予算化する事とした。</p> <p>・行事予定表の広告募集について</p> <p>例年、広告企業 12 社を揃えるのは非常に困難ではあるが、引き続き月例行事予定表の発刊と広告掲載は行う（必要）との結論になった。</p> <p>広告申込み企業に対しては、広告形態は例年通り行事予定表下段に広告を掲載すること、A4 サイズの広告印刷物を年 3 回同封配布する事となった。</p> <p>各協賛企業には、広告掲載された行事予定表の印刷物が、決済を得るうえで必要との事から、配布する事となった（企業担当者に行事予定表をメール添付する）。</p> <p>本広告形態が、コンプライアンス上問題が無いかも含めて、引き続き調査する事となった。</p>				
記録作成	平成 25 年 11 月 30 日	氏 名	田中 規仁	提 出	平成 25 年 12 月 2 日

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可